

# スマート農林業の推進 祝 条例改正までの熱い思い

2021年4月発行

【特別号】

経済地域委員長として2年間、農林業への熱いエールを含めた取り組みが大きく結実しました。農林業振興条例改正案を提案、全会一致で可決。市議会基本条例施行後、松本市議会初の快挙です。

具体的な推進施策をまとめた提言書も、臥雲市長に提出しました。感慨を含めて2年間の歩みを皆様にご報告します。



調査研究はここからスタート！  
令和元年 7月26日（金）先進地視察  
福岡市 / 富士通（株）九州支社  
「ICTを活用した鳥獣被害対策」

▼市民タイムス  
令和3年1月29日（金）

## スマート農林業推進へ

### 市議会初の政策条例提案へ

就業人口の減少や高齢化に直面する農林業の課題解消に向けて、松本市議会がロボット技術やAI（人工知能）などの先端技術を駆使する「スマート農林業」の推進を模索している。市農林業振興条例を改正してスマート農林業の推進を明文化したい考えで、年内にも骨子案をパブリックコメントで公表する方針だ。市会による政策条例の提案は平成21（2009）年4月の市議会基本条例施行以来、初となる。（有賀文香）

市議会経済地域委員 市農林業の普及促進も珍しいといひ、来年会が主体となり、昨年▽農林業従事者への適度から調査研究を進め、切な財政支援▽実証してきた。同委員会が、イルドの構築などを掲げた。討論会を開き、趣旨や内容を議論した。吉村幸代委員長は「スマート農林業に関する市の取り組みは道半ば。大切な産業を守り、継承するために積極的な推進につなげたい」と話した。

### ロボット技術やAI駆使

スマート農林業の推進を議論した政策討論会



## 政策条例案 2月市会提出

松本市会  
経済地域委

先端技術で農林業持続化

松本市議会経済地域委員（吉村幸代委員長）は28日、ロボット技術やAI（人工知能）政策提言書の素案と市

農林業振興条例の改正最終案を市会政策討論会で公表した。来月の議会運営委員会でも協議した後、議案として市議会2月定例会に提出する。提言書は臥雲義尚市長に提出する。平成21（2009）年4月の市議会基本条例施行以来、市会が初めて提案する政策条例として取りまとめた。11日まで実施したパブリックコメントには市民から10件の意見が寄せられた。市に投げ掛け、ここからどう進んでいくかが正念場だ」としている。（有賀文香）



条例改正案などを政策討論会で示す経済地域委員会

▲市民タイムス  
令和2年12月1日（火）

農林業は、労働生産性と安全性の低さが指摘されてきました。担い手不足や高齢化などの課題も深刻。スマート農林業はその突破口となり得ます。

「条例改正＋具体的施策の政策提言」の二頭立てを目指そうと心に決めたのは、令和2年5月のことでした。



農業委員会とも意見交換を重ねて  
令和元年8月21日（水）松本市役所



令和3年2月定例議会  
松本市農林業振興条例の改正案  
**全会一致で可決!**

松本市農林業振興条例は、農林業分野の基本条例です。「持続的に発展する魅力ある農林業の確立」を目的とし、農林業振興の基本理念や施策の基本方針から、振興施策の実施状況の公表や財政上の措置までも定めています。

農林業の生産性や労働安全性を高めるために、国や県はスマート農林業の推進に積極的ですが、松本市では、平成30年度に農業委員会から提言があったにも関わらず、スマート農林業の推進に積極的ではありませんでした。

そこで、こうした執行機関だけでは解決できない問題にこそ、市議会として権能を発揮し、具体的な施策の根拠となるようスマート農林業推進の方針を条例に明文化する必要があると考えました。スマート農林業推進を明記した条例は、全国的にも珍しいそうです。

なお、条例改正にあたってはパブリックコメントの実施が必要となり、市民の皆様方からスマート農林業に期待するご意見をたくさん頂戴しました。農林業現場からの切実な要望も数多く寄せられたため、市長への提言書に追加項目を設けて記載しました。

▼市民タイムス  
令和3年3月30日(火)



**スマート農林業  
松本市会が提言  
補助金人材育成に促す**  
松本市議会は29日、情報通信技術（ICT）やロボット技術、人工知能（AI）を活用する「スマート農林業」推進を求める提言書を市に提出

村上市雄議長が臥雲義尚市長に提言書を手渡した。吉村幸代委員長は農林業中の事故を減らし、若者や女性の参入を促すためにも「前向きに取り組んでほしい」。臥雲市長は「できるだけ早期に形にしていく責務をしっかりと担いたい」と応じた。

した。写真。補助金創設、人材育成、相談支援体制の整備、国や県の財源を活用して実証的に導入する試みを提言した。市議会経済地域委員会が2年間研究し、スマート農林業推進を盛り込んだ市農林業振興条例改正案が2月定例会で可決され、4月1日施行の同条例に基づき、農林業の生産性や安全性を高めるための具体策をまとめた。



松本市議会は29日、技術を駆使した新たなロボット技術やAI農林業のあり方をまとめた「スマート農林業

**スマート農林業推進要望  
市会が市長に提言書**

▲信濃毎日新聞  
令和3年3月30日(火)

コロナ禍を受けて視察や諸行事が中止となった令和2年の春、私は考えました。「この災いを福に転じられないものか？」

読書時間が増えました。オンラインで、全国各地の方々との意見交換が可能になりました。ピンチがチャンスに変わったのです。

平成29年度に、私は経済地域委員会の副委員長を務め、政策提言「農業分野における温暖化対策」を執筆しました。スマート農林業に関する調査研究と政策提言は、その頃からの悲願。松本市の農林業を何とかしたいという、執念に近い思いで歩み続けてきました。

提言は力作！インターネット等でお読みいただけたら幸いです。

の推進を求める提言書」を臥雲義尚市長に提出した。市役所に村上市雄議長と、経済地域委員会の吉村幸代委員長らが訪れ、提言書を渡した。

提言書では就業人口の減少や高齢化の進行などの農林業の課題を解決するため、スマート農林業を活用することを求めている。具体的には▽シンボジウムの開催▽補助金など農林業従事者への財政支援▽人材の育成と相談

支援体制の整備▽実証フィールドの構築▽新たな森林管理システム



臥雲市長(右)に提言書を手渡す村上市長

提言は経済地域委員会が中心となって検討を進めてきた。市議会2月定例会でスマート農林業の推進規定を追加した市農林業振興条例案を可決した。

(小口浩一)